あさひやまどうぶつえんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

モユク☆カムイ

☆モユク・カムイとはアイヌ語で
「エゾタヌキ」のことです。

シベリアオオヤマネコ
Felis lynx lynx

NO. 27
JAN 1992

シロフクロウ

表紙のことば

シベリアオオヤマネコ
太くて長いあし、
しなやかなもの腰、
魅力的な瞳、
なぜかヒトの女性を
連想させるんだなぁ

もくじ

2 ほっと　ひとPhot ー
3 新・どうぶつ解析考 ー 花札の冬
4.5 「動物ってなんだろう？」
第4回「サル」その4　類人猿
6.7 冬の動物園
8 動物園放浪記　ー ちあきの巻④ ー
Vet News（動物病院から）
9 飼育研究レポート
ー 新しいサル山 ー
10 ゲンちゃんの追求コーナー
ー ウサギの耳はなぜ長いの ー
クイズ
11 飼育日誌
お知らせ

新・どうぶつ解析考

花札の冬

11月　柳に雨

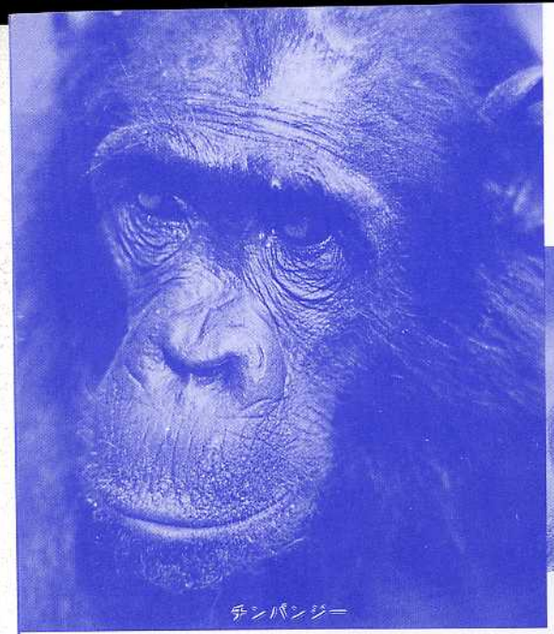
旭川は寒いところで、11月ともなれば雪景色
しかし、このところ地球温暖化のせいか
雨も珍しくはないが、さすがにカエルは冬眠中

12月　桐に鳳凰

さすがに師走の声を聞くと、白一色となる
北海道では雪を冠ったニレの大木に
シロフクロウが止まっている

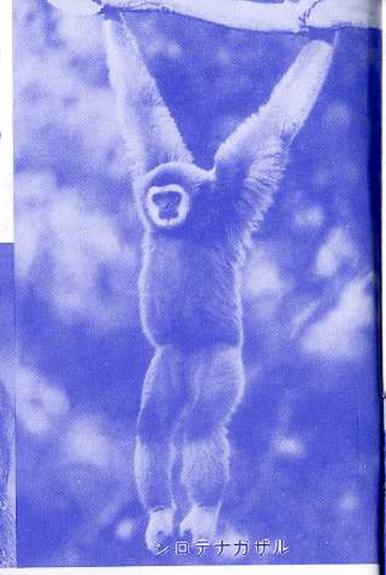
1月　松に鶴

まさに北海道。
タンチョウは残念ながら旭川周辺には生息しない
大雪山のエゾマツの樹海をタンチョウが飛ぶ
思いえがくだけでも、すばらしい


チンパンジー

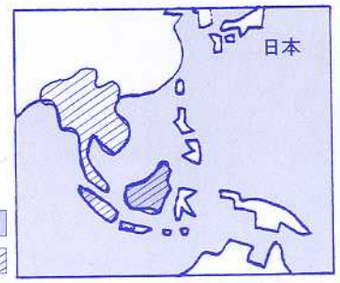
どうぶつって なんだろ？ さサる猿

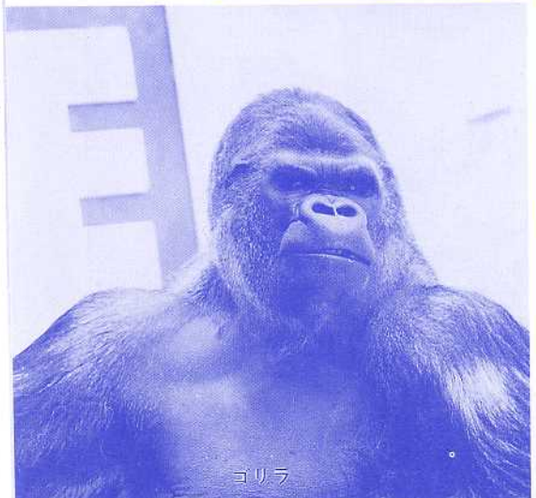
オランウータン


シロテナガザル

その4
ヒトに似ている
サルの仲間

類人猿（るいじんえん）




ゴリラ

最も人に近いサルの仲間で、尾がありません。大型のオランウータン科と小型のテナガザル科の２科に分けられます。

○オランウータン科

アジアにオランウータン、アフリカにはピグミーチンパンジーとチンパンジー、ゴリラの３種で合計４種がいます。

オランウータンは樹上性、２種のチンパンジーは半樹上半地上性、ゴリラは地上性と生活の仕方はさまざまです。地上での歩行は特徴的で、手を軽く握り、指の背を地面につけて歩きます（ナックル歩行）。

食べ物は大体が植物食ですが、チンパンジーは肉食もします。歯の数はヒトと同じで32本です。下顎の大臼歯は５つの咬頭を持つＹ－５型で、ヒトと共通しており、オランウータン科の特徴となっています。

○テナガザル科

東南アジアの原生林にすみ、完全な樹上生活をします。ニホンザルの仲間にある「しりだこ」があります。

木の間を移動するときは腕渡り（ブラキエーション）で、実に素早く飛び回ることができますが、地上では長い両手を上げてバランスをとりながら、２足歩行でヨタヨタと歩きます。

ニホンザルのような群れはつくらず、オス１頭、メス１頭とそのこどもたちの家族群で生活しています。食べ物は主に植物食ですが、たまに小鳥や鳥の卵なども食べます。歯の数はヒトと同じ32本です。

頭 頭がいい
おとなになると
てっぺんが
もりあがる

腕 とても力強い

胸 うれしいとき
こうふんしたときに
胸をたたく

いちばん大きなサル

ローランドゴリラ

Lowland Gorilla
Gorilla gorilla gorilla

西アフリカの森林に小さな群れをつくって生活している。シダ、セロリ、タケノコ、木の芽、くだものなど植物しか食べない。
生息数は年々減ってきてとても危険な状態にある。

背 おとなのオスは
背中の毛が
銀色になる
（シルバーバック）

手 指をおって歩く
ナックル歩行

体重 おとなのオス
約200kg
メス130kg

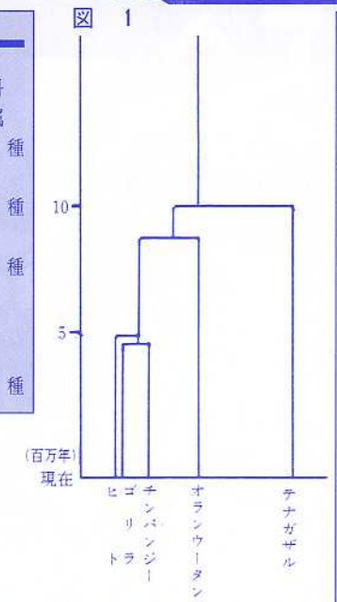
もも 太くて
がんじょう
プロレスラー
みたいだ

●分　類

オランウータン科
　オランウータン属
　　1　種
　チンパンジー属
　　2　種
　ゴ　リ　ラ　属
　　1　種

テナガザル科
　テナガザル属
　　6　種

図　1



「ヒトの進化」（ロジャー・ウィン）より参考

●ヒトと類人猿の間

10数年前までは、ヒトが類人猿の祖先と分かれたのは2000万年前頃と言われ、1500万年前頃にいたラマピテクスがヒトの祖先と思われていた。

ところが、最近のＤＮＡに関する研究によれば、類人猿と人が分岐したのはなんと500万年前のことだという。類人猿の祖先型から、先ずテナガザルが分岐し、その後オランウータンが分かれ、ずっと後になって、ゴリラ、チンパンジー、ヒトの分化が起こったらしい。現在ではヒト科の系統が分離した後にゴリラ、チンパンジー共通の祖先が、一時的に存在したことは確かであろう、という説が広まりつつある。（図１）

一方、古い時代のヒトの化石の発見は、どんどん遡り、タンザニアで発見された化石骨は300万～360万年前のもので、さらに400万～500万年前の化石の発見も十分考えられるという。

また、類人猿の祖先型からヒト科が分かれ、そこからヒト、チンパンジー、ゴリラがそれぞれに分かれてきたという説もある。その様なことを考えながら、毎日、彼らと接していると複雑な気持ちになってしまう。われわれのしていることをじっと見ているわけだから……

雪の中のどうぶつえん

カバ
8年ぶりにゴンとサブコが同居しました。2頭仲よくおひげに霜柱をつけて、白い息をはあ〜

キリン
初めて冬を迎えたユウタ、寒さは苦手だけど、タミオとマーナによりそって元気！元気！

ゾウ
アジアゾウのアサコは雪合戦が大好き。器用な鼻で上手に雪玉をつくって…“えい！”

サル山
ニホンザルになったサル山…。寒さなんてへっちゃら…っていいたいけど、おじさーんもう、そろそろ部屋に入りたいな。

小動物舎
ヤマアラシもアライグマもオセロットもウォンバットも…みーんな部屋の中。しーん。

アリゲーター
25℃の部屋の中、それでもエサを残しぎみ。

アザラシ
寒さなんてへっちゃら！表面はこおってもプールの中でスイスイ！氷の穴から出した顔を見てもらえなくて残念！

フクロウ
アオバズクは、暖かい部屋へお引越し…
他のフクロウは、平気な顔！

ダチョウ、エミュウ
さむいなぁ、おじさん！外に出なきゃだめ？

トラ、ライオン
寒がりはどっちかな？百獣の王ライオンも寒さには負け！それに比べてトラの元気なこと!!

ホッキョクグマ
コユキ、今日も入らないの？
だってお外が好きなんだもーん。

サルアパート
しーん。ぶるぶる。寒さなんて大嫌い！

チンパ
カゼひかないでね。

ゴリラ
寒さは大の苦手！お部屋の中で春をまちます。

フラミンゴ
冬でもピンクの羽は美しい。

水鳥たち
もうプールの水もぬいて水鳥たちも部屋の中…。
オシドリのオスたちは今が一番美しいんですけどね。

カピバラ
とてもじゃないけど旭川の冬は厳しすぎ。越冬舎へお引越し…。

ユキウサギ
いつのまにか体がまっしろ…。
耳の先は黒いのね！

エゾリス
シマリスたちと違って冬も元気に走りまわっているね！

小獣舎
シベリアヒョウのさくらは雪の中じゃれて顔の半分まっしろけ。
エゾヒグマはねてるかな…？あら！冬ごもりしてないよ。

エゾシカ
昨年保護されたミーコもすっかり冬毛がいたにつき、群れの一員になれました。よかったね！

フタコブラクダ
あたたかい所が好きなんでしょ？ってとんでもない！
旭川くらいの寒さはへっちゃらだよ！

だれが1番寒さに強いかな？くらべてみると……

寒さに強い

ホッキョクグマ……なんたって北極　No.1
ゴマフアザラシ……皮下脂肪10cm
ワ　ピ　チ……雪の中も平気
アムールトラ……雪の中でじゃれるの大すき
シベリアオオヤマネコ……深雪でも長い足は便利なんだ
オ オ カ ミ……しばれる月夜に
　　ウォーウォー
シベリアヒョウ……去年うまれのさくらちゃんも
　　雪の上でゴロンゴロン
ヒ　グ　マ……北海道生まれだもん
シロフクロウ……白い色は雪の色
ア カ ゲ ラ……木から木へコンコンコン
キタキツネ……雪の上の足跡が点々……
エゾユキウサギ……まっ白になったよ
フタコブラクダ……フサフサの冬毛は暖かい
オジロワシ……流氷の上で魚とり
カ　　モ……冬も水の中でスイスイ
ニホンザル……みんなでかたまって
　　おしくらまんじゅう

寒さになれた

ハクチョウ……寒すぎると南へ行く
インドゾウ……雪玉つくってポイッ
キ リ ン……意外と平気
カ　　バ……若い頃は寒くても平気だった
　　たんだがなあ

寒いの大キライ

アライグマ……寒いのイヤ
ヤマアラシ……暖かいのがいい
オセロット……ポカポカお部屋が好き
フラミンゴ……暖かいのに限る
ライ オ ン……雪を見ると出たがらない
チンパンジー……わあー雪だぁ！寒い！
　　風邪ひいちゃたいへん
ゴ リ ラ……雪?!　じょうだんでしょ

動物園放浪記
ちゃちゃきの巻 ―その4―

教育的展示について考える

動物園放浪記最終回は、２週間に及ぶ放浪の末、最後に見学した「富山市ファミリーパーク」を紹介します。

富山市ファミリーパークは緑の多い広々とした動物園でした。本州では当り前の顔をした竹林は、道産子の私にとっては立ち止まらずにはいられないほど感動的な美しさでした。自然をふんだんに残した園内には遊歩道が裏の方まで入り組んで走っており、散策を楽しめるようになっていました。また、園内での野生動物の観察、中でもタヌキの調査は徹底して行われており、地道な積み重ねの大切さを感じました。

カンガルーやライオンなど、ほとんどの動物舎の前には解説板の他に、各々の動物たちの近況を伝える看板があり、来た人に動物たちがより身近に感じられるようになっていました。

この動物園は特に日本産動物の展示や、動物園での教育活動に力を入れており、園内の郷土博物館は「富山の動物や自然の普及」というテーマが根底に流れており、他の動物園の資料館とはちょっと違った印象を受けました。

私が富山を訪れた時は、ちょうど冬季閉園に入ったばかりの時でしたが、もう次の開園に向けて展示替えをしていました。よりよいものへの強い追求を感じさせられました。館内は生き物とその生息環境が一つになって展示されていました。また、動物たちの「衣・食・住」をテーマにホンドテンの夏毛と冬毛を実際に触れるように展示されていたり、ノウサギの換毛の様子を写真で順を追って解説したり、４種類のネズミのすみわけ（生活の違い）を展示していたり、と私の目には新鮮に映ることばかりでした。

教育活動も精力的に行われており、普及・催し物の多さには驚かされました。自然教室や探検隊といった毎日の催しの他にこども動物園でのガイドや保母さんへの講習も行なわれていました。自然教室や探検隊では飼育動物に限らず、園内の自然の中での普及活動で、生き物の出す音を聞いてみたり、顕微鏡でいろいろなものを見てみたり、魚虫鳥や植物など、辺りにある自然を無理なく認識できるよう充実した内容でした。園内すべてを展示と見立てていくことの大切さを感じました。

Vet.News
―血統管理―

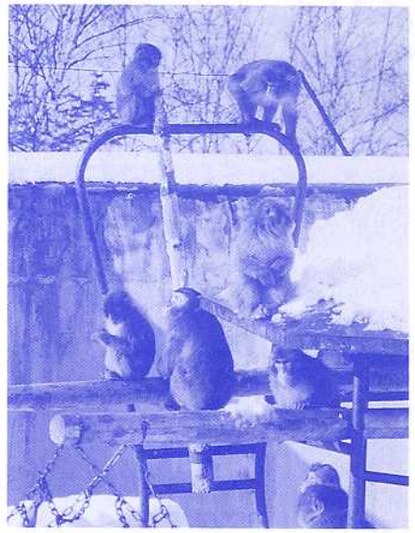
血統を管理する。これからの動物園が、例えば20年後に、健康で生き生きとした動物達を皆さんにお見せ出来るかどうかは、この事にかかっているといっても過言ではありません。もう野生の個体を捕獲して新しい血統を導入する、という時代ではないのです。

日本の動物園もやっとこの事に気付き、真剣に取り組み始めました。具体的には、“いかにして近親交配を避けて、次の代を残していくか”という事なのですが、近親交配が３代くらい続くと、体の小形化、生殖能力の低下、たくましさに欠けるなどの障害が出てきます。

当園で生まれたシベリアヒョウのサクラは、最も血縁関係の薄い個体とペアを組む事になるのですが、その相手が見つかって、もらわれていくまでは、当園で責任を持って飼育しなければなりません。サクラの例を見るまでもなく、飼育スペースの問題、他園館との協力、繁殖制限など、これから解決していかなければならない問題がたくさんあります。

でもサクラの様にルーツをたどることが出来て、結婚相手を見つけてくれる仲人がいる動物は幸せです。国際的にも、国内においても血統がちゃんと管理されている動物種は、まだほんのひと握りしかいないのが現状です。

サル山日記



サル山は昨年３月、ニホンザルの群れになりました。実は10年ほど前から冬のことを考えて「やはり寒さに強いニホンザルの群れにしようよ」と話し合ってきたのですが、実際に換えようとなったときに、どうやって群れをつくるのか、どこからニホンザルを入れるのかなど、いろいろな方法を検討しました。

最も一般的なのは、どこかの動物園から安定した群れの一部を分けてもらう方法です。しかし、この方法では近親交配の心配が後々まで残ります。いくつかの動物園から数頭ずつ分けてもらい、寄せ集めの群れをつくればどうなるか。おとなザルを群れに入れると激しく闘争し合い、群れどころか、生き残れるサルの方が少なくなってしまう事態になりかねません。

そこで、札幌、帯広、釧路の３カ所の動物園にお願いして、１～３才の子ザルだけを譲ってもらい、22頭の寄せ集めこどもサル山として出発することとなりました。３月27日、可愛いやんちゃ盛りのこどもたちは、各動物園からトラックにゆられて旭山動物園のサル山までやってきました。

先ず、寝室の中で、釧路からやってきた１～２才の５頭と帯広の１才の６頭を同居させました。一緒にした途端、初めての場所で不安だったせいか、すぐに一緒になって私たちを安心させてくれました。次に、３才の札幌のグループと一緒にしたのですが、これも何事もなく通過し、やはりこども同士であれば、群れは違っても闘争することはないことを確認できました。

しかし、問題は旭山のおとなザルたちを群れに入れる時です。

７月13日、まず長男を１頭だけ群れにいれました。出ていった途端に子ザルたちに咬みつかなければいいが、と心配していましたが、13才になるまで家族だけで生活していた長男坊にとって、22頭もの大群は恐怖以外の何物でもなく、赤い顔を真っ青にして逃げまどってばかり。私たちもあわてて次男、父親、母親の３頭を援軍に出しました。両親は群れ生活をした経験があるため、すぐに群れの中心へどんと腰を下ろしましたが、旭山生まれの２頭は散々逃げ迷った挙句、長男は母親に、次男は父親にしっかりとつかまるようにして、ようやく落ち着くことができました。しばらくは顔面蒼白、あの赤いお尻まで血の気を失って、口をポカンと開け放心状態のままでした。

ところが７月25日、寝室に血が落ちているのを発見しました。心配していた闘争が起き始めたのです。傷ついたサルをすぐに入院させ手術し、傷口から加害者はおとなザルと判断し、長男、次男の２頭を隔離しました。サルの犬歯は刃のように鋭くとがっていて、オオカミの歯よりも切り裂く威力は強いのです。

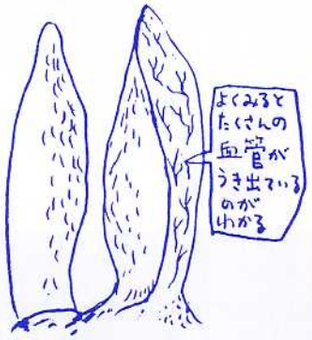
２頭の犬歯の先をやすりで丸くして、咬みついてもひどく切れないようにしてから、再度群れへ戻してみました。サルは私たちが見ているところでは闘争しませんので、飼育係でない人に観察をお願いしていたところ、長男が円山のメスに咬みつく現場をおさえることができました（犯罪捜査のようです）。長男はただちに逮捕され、その後、闘争事件は起こらなくなりました。

11月に入って、次男が若いメスたちからグルーミングをされているところを観察できるようになり、ようやく群れに受け入れられたと一安心しました。また11月20日には初めて次男坊が交尾しているところも確認しました。今は母親が群れの中心となっているようですが、そのうち次男が群れのまん中に座る日が来ると思います。初めの計画通り、４カ所の動物園のニホンザルから一つの新しい群れができ上がりつつあります。

小さな疑問から大きな疑問まで、『げんちゃんの追及コーナー』へ、どんどんお送り下さい。採用させていただいた方には、旭山動物園特製“エゾシカの角のキーホルダー”をプレゼントいたします。

Q ウサギの耳はどうして長いのですか？

日下部　さやか　ちゃん（旭川市旭町）



A ウサギが走っている姿を思い浮かべてみてください。耳をねかせて風を切るように走っていると思っていませんか？

ウサギの目の高さで回りの景色を眺めてください。驚くほど見通しが悪い事に気付きます。今、キツネが風下から忍び寄ってきました。ウサギからはキツネが見えません。風下なので匂いもしません。ウサギは大きな耳をぴんと立てて四方八方のどんな小さな音も聞き逃さないように注意しています。‘カサ’そのとたん「後ろにキツネがいる！」と感じウサギは瞬間的に走りだしています。そうです。大きくて長い耳は音をよく聞くためのものなのです。耳はまた、くるくるとよく動いて頭を動かさなくても、どの方向の音もキャッチできます。走って逃げているときも耳をぴんと立てて、キツネがどのくらいの距離にいるかを、正確に判断してます。

長くて大きな耳の役割はもう一つあります。みんなも全力で走ると体が熱くなりますね。そのまま熱が体の中にたまると熱射病になってしまいます。ヒトの場合は汗が全身から吹き出して、それが蒸発するときに熱を奪ってくれます。ウサギは体毛に覆われているので、そういうわけにはいきません。耳をぴんと立てて走れば、耳にたくさんの風が当たります。耳にはたくさんの血管が走っているので、血液がどんどん冷やされて体にたまった熱を逃がす事ができます。いわば空冷式のラジエーターなのです。ちなみにイヌは舌から熱を逃がします。

クイズ

どっちの体重が重いかな？

ゴマフあざらし？　おねえさん？

正解者の中から抽選で3名の方に旭山動物園特製“エゾシカのキーホルダー”が当たります。

応募方法

ハガキに答えと住所、氏名、年齢、電話番号を書いて旭山動物園モユク・カムイ係までお送りください。

応募〆切

1992年3月20日

● 前号の答え ●

正解はカバでした。

《正解率57％》

写真はカバの「目」と「足の裏」と「お尻」でした。

キーホルダー当選者

旭川市　坂本　友子さん
旭川市　工藤　稔さん
当麻町　田中久美子さん

飼育日誌《平成3. 10. 1～平成3. 12. 16》

10. 2　第162回旭山動物園飼育研究会
　「オセロットの繁殖について」高橋
　ZOOガイド「西御料地小学校1年」
10. 5　チンパンジー［ポピア］死亡
10. 7　第4回日本動物園水族館協会
　種保存委員会拡大会議 於：神戸～8
10. 7　エゾシカ保護（骨折）
10. 8　日本動物園水族館協会北海道ブロック
　秋期飼育技術者研究会 於：室蘭
　「タンチョウの飼育について」小林
10. 9　ZOOガイド「旭川保健所」
10.12　ホッキョクグマ産室に移動
10.14　キタキツネ、エゾタヌキ
　交通事故で保護 手術
10.17　ZOOガイド「あたごヤンチャリカ」
10.20　さよならウォークラリー
　平成3年度閉園日
10.21　閉園準備作業開始
10.22　ワピチ　死亡
10.30　ZOOガイド「春光台中学校2年」
　ZOOガイド「教育大学付属中学1年」
11. 1　ニホンザル 旭山長男次男同居
11. 2　ニホンザル闘争 長男隔離
11. 6　市職員研修「体験研修」～8
11.11　シロテテナガザル咬創 外科手術
11.12　第1回全国ゾウ会議 於：上野
11.17　カバ同居（最後の繁殖計画）
11.20　ニホンザル 旭山次男交尾
　サル山情勢 安定化へ
11.21　カバ交尾
11.23　第163回旭山動物園飼育研究会
　「旭山動物園に於ける教育活動」阿部
12. 2　日本動物園水族館協会
　第39回飼育技術者研究会 於：熊本
　「チンパンジーの蟯虫症」坂東
　「シベリアヒョウの繁殖」辻栄
12. 8　マルミミゾウ　皮膚治療
12.11　アカハナグマ（♂）市川市動植物園へ
　♂・♀を繁殖のために交換（16入園）
12.16　ゴマフアザラシ プールまで歩いて移動

飼育動物数

（12月1日現在）

哺乳類	40種	183点
鳥　類	91種	530点
爬虫類	9種	51点
合　計	140種	764点

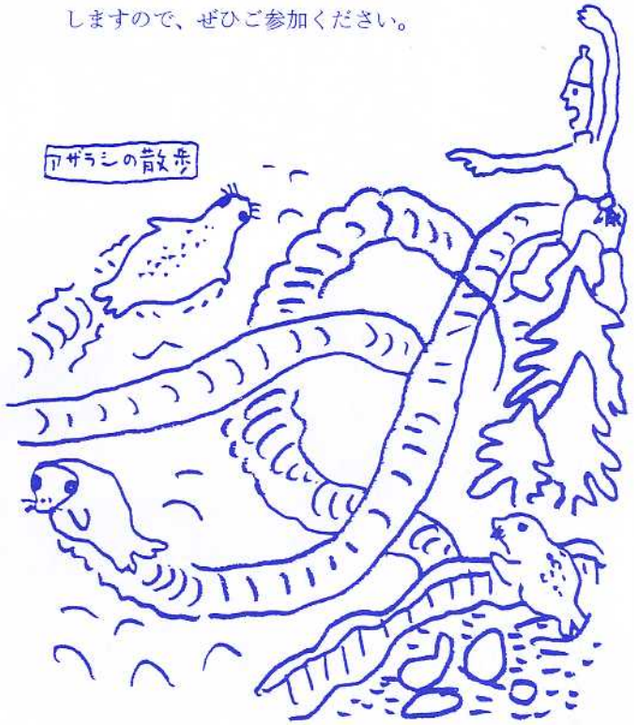
おしらせ

◎モユク・カムイの申し込み方法

1年分の送料として120円切手を4枚同封して、旭川市旭山動物園モユクカムイ係までお申し込みください。

◎冬の動物園観察会

雪の中で暮らす動物たちを観察する会を2回ほど計画しています。開催日は報道機関等を通じてご案内致しますので、ぜひご参加ください。



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

昨年たくさんの動物たちが生まれ、話題の多い年でした。今年もユキヒョウやサル山の話題など、春の開園に向けて、さい先のよいスタートをきれそうです。

モユク・カムイも新しくなり、新しい企画を探しているところです。皆様のアイディアを頂戴できれば、たいへん有難いと思っておりますので、よろしくお願い致します。

モユク・カムイ No.27　平成4年1月15日

発行所　旭川市旭山動物園　〒078　旭川市東旭川町倉沼　☎0166-36-1104
発行人　菅野　浩　編集委員　小菅正夫・阿部　寛・坂東　元・谷ちあき
印　刷　谷川印刷株式会社　〒070　旭川市旭町1条4丁目　☎0166-51-0653